

### 1.調査地の概要

本調査では、T県M市にある総合病院A(以後Aと表記)の付属施設である、認知症患者対象のグループホームB(以後Bと表記)に御協力いただき、撮影・聞き取り調査を行った。Bは要介護度1～5のいずれにおいても入居可能であり、施設内を二つに分け、症状の度合により居住を定めている。施設内における入居者の生活スペースは共同空間であるリビング・キッチン・共同トイレバス、各利用者ごとの個室である。Bでは家庭的な環境の中での生活支援を目指しており、施設内のキッチン・バスなど基本的な構造は一般家庭におけるそれとほぼ変わらない。個室は全室介護用ベッドを設置し、また利用者の要介護度・症状進行に応じポータブルトイレを設置するなど利用者の状況に柔軟に対応している。またBはAの付属施設であることから24時間の医療ケアが可能となっている。



写真1 食堂



写真2 個室

### 2.調査の概要

本調査では、上記グループホームB御協力の元、グループホームにおける認知症患者の相互行為を調査した。調査地Bへは計3回赴いた。1回目の訪問では、本調査に参加した学生計11名と教員1名の計12名で2つに分かれた施設をそれぞれ訪問し、施設の見学と入居者とのコミュニケーションを図った。施設見学では施設職員によるバス、トイレ等の

説明を受けた。2回目の訪問では、学生が1回目の訪問で訪れた方の施設を再度訪問し、入居者とのコミュニケーションを図った。そして最後となる3回目の訪問では、撮影カメラを導入し、施設及び入居者の撮影を2日間行った。撮影には設置カメラが計6台とハンディカメラを計2台用いた。その際、調査許諾を得た入居者を対象に学生によるインタビューも併せて実施した。